

シリーズ 下水道探訪

東京の足元を流れる下水道は、様々な顔を持っています。
ここでは、下水道に関するいろいろな施設等をシリーズでご案内していきます。

第3回目は、貴重な土木遺産として東京都指定史跡に指定されている、「神田下水」をご紹介します。
神田下水は、明治17年(1884)から18年(1885)にかけて建設され、その一部が125年後の今も、下水道施設としての機能を果たし続けている我が国初の近代下水道です。



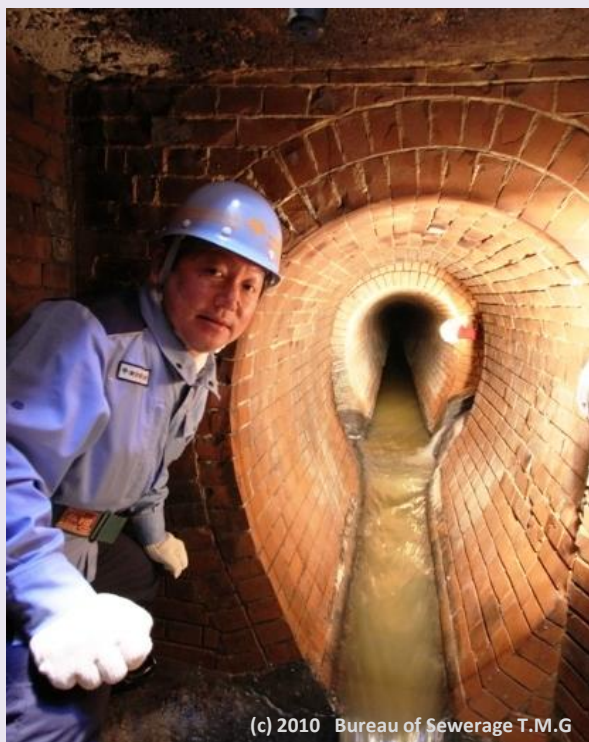
▼ 人孔(マンホール)も管もレンガ積みでできています。



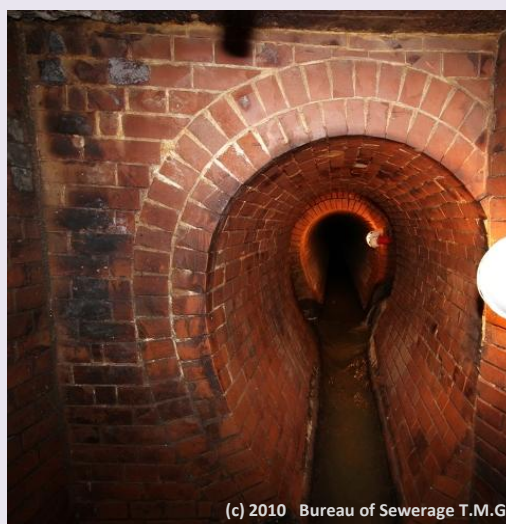
▼ 関東大震災や戦災をくぐり抜け、125年経た今も、現役の下水道施設として機能しています。



▼ 高さは91cm~136cm、幅は61cm~91cmです。



▲ 写真の職員も中腰で撮影しています。



神田下水は卵形管といい、鳥の卵を逆さにした形をしています。特徴としては、管内に流れる下水の量が少ないときにも、流速が確保できるため、ゴミが堆積しない合理的な断面をしています。

▲ [一覧へ戻る](#)